

考えてみませんか？ 男女共同参画のこと

～男女がともに行動し、活躍できる社会を目指して～

近年、「男女共同参画」という言葉をよく耳にするようになりました。

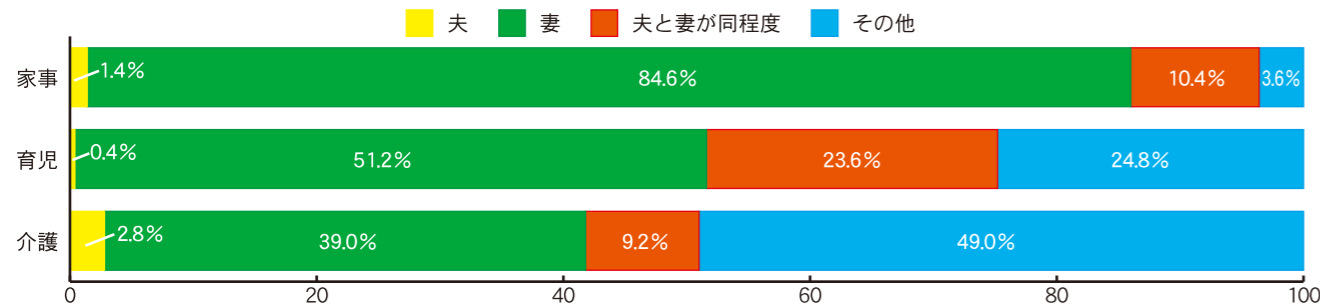
「男女共同参画社会」とはどんな社会でしょうか。

なぜ「男女共同参画社会」が必要なのでしょうか。

さまざまな統計結果や実態を踏まえながら、

もう一度「男女共同参画」について考えてみましょう。

●家庭生活における役割分担の状況



家庭の状況

上のグラフは、平成23年に実施した「枕崎市男女共同参画に関する意識調査」での家庭生活における役割分担の状況の結果です。

家庭生活での家事、育児、介護の役割分担を見ると、家事については84・6%、育児については51・2%、介護は39%の割合で妻が担っているという調査結果となりました。

依然として、家事や育児の負担が偏っていることがわかります。その理由として、「男は仕事、女は家事」といった固定的性別役割分担意識が未だに残っているということも考えられますが、現実として、男性が仕事に忙しい家事や育児を行うことができないう状況にあるということも考えられます。

ワーク・ライフ・バランス

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を聞いた事があるでしょうか。
ワーク・ライフ・バランスは、「仕事と生活の調和」と訳され、性別、年齢を問わず、一人ひとりがやりがいや充実感を持ちなが

男女共同参画社会とは、「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらずにその個性と能力を十分に発揮することができる社会の姿」のことをいいます。

少子高齢化の進行や高度情報化の進展、家族形態や個々のライフスタイルの複雑多様化など、私たちが取り巻く環境は今なお変化し続けています。これらに的確に対応した地域社会づくりを進めていくためには、すべての人がその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現が求められています。

職場の状況

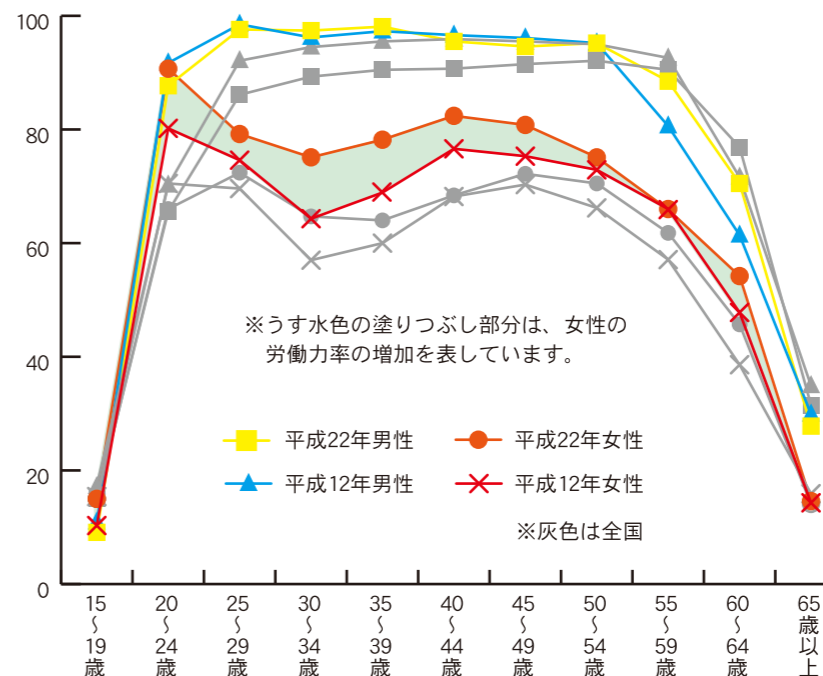
下のグラフは、枕崎市の年代別の労働力率(男女別)を平成12年と平成22年で比較したものです。

男性は、平成12年、平成22年ともに20歳代から50歳代までは同様の割合の人が働いており、グラフは台形になっています。

一方で、女性は20歳代後半から30歳代前半にかけて働く人の割合が減少し、30歳代後半から40歳代前半にかけて徐々に増加するM字型の曲線(以下、「M字曲線」)になっています。これは、女

●枕崎市の年齢階級別男女の労働力率の比較

データ：国勢調査(平成12年、22年)



性の働き方における日本の特徴といわれる「時就業中断型」を示すものです。このM字曲線を平成12年と平成22年で比較してみると、平成22年のM字は少しゆるやかなっています。

このことから、10年前と比べると結婚・出産後も継続して働く

女性の割合が増加していることがわかってきます。

全国状況と比較しても、M字曲線の形はほぼ同じという結果となり、働く女性の割合が増加傾向にあるのは、本市だけでなく全国的にも同じであることがわかってきました。

ら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できる状況のことをいいます。

しかし、「安定した仕事に就けず、経済的に自立できない」、「仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない」、「仕事と子育てや親の介護との両立が難しい」などの理由で、多くの方がワーク・ライフ・バランスを実現できていないという現実もあります。

ワーク・ライフ・バランスが実現すると、働く人たちはもちろん企業などに下記のようなメリットがあります。

また、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、私たちは次のような社会を目指していかねければなりません。

①就労による経済的自立が可能な社会

経済的自立を必要とする者が、いきいきと働くことで経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに対する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。

②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

働く人たちの健康が守られ、家族、友人などとの充実した時間や自己啓発、地域活動への参加の時間を持つなど豊かな生活ができる。

③多様な生き方・働き方が選択できる社会

性別や年齢などにかかわらず、誰もが意識と能力を持ってさまざまな生き方や働き方に挑戦できる機会が提供されていて、子育てや介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様な柔軟な働き方が選択でき、

公正な処遇が確保されている。

これらを実現するために、国や地方公共団体、企業、働く人たちが一体となってワーク・ライフ・バランスのあり方を考え、社会全体で取り組みを進めていくことが重要です。

特に家庭では、「固定的性別役割分担」を見直し、性別にかかわらず家事や育児、介護などを行い、家族や地域との関わりを持つことが大切です。

●ワーク・ライフ・バランスが実現すると...

働く人たちのメリット

- 健康づくりや休養のために時間がとれると、心身の健康を維持できる
- 子育てをしながら仕事を続けることができ、生きがいを感じる
- 残業が減り、子育てや家事を夫婦で分担できるようになり、夫婦ともに仕事との両立ができる

企業のメリット

- 長時間労働を改善し、従業員の健康が守られる
- 知識や技術、経験のある人材の離職を防ぎ、有能な人材の確保につながる
- 限られた時間で仕事をしようとするため、仕事の効率化が図られる